



こどもの内視鏡手術について

総合病院 土浦協同病院
小児外科部長 五藤 周

司会者：おとなでは腹腔鏡や胸腔鏡など内視鏡を用いた手術が行われているのを聞いたことがあるのですが、こどもにも内視鏡を用いた手術は行われているのでしょうか？

五 藤：こどもに対する内視鏡手術は 1990 年代から行われていますが、最初のうちは限られた一部の病院で行われていました。しかし特に 2000 年代に入ってからはいろいろな手術がより多くの病院で行われるようになってきています。

司会者：こどもの内視鏡手術は増えているのですね。しかしこどもといっても赤ちゃん和小中学生ではずいぶんと体の大きさが違います。やはり内視鏡手術が可能となるのは、体がある程度大きくなったお子さんに限られるのでしょうか？

五 藤：こどもの手術をもっぱら行っている小児外科では、体の小さい乳幼児であっても小児外科医が内視鏡手術を行うことが適切だと判断した場合、内視鏡手術を行います。時には生まれて間もない新生児に対しても内視鏡手術を行うことがありますよ。

司会者：新生児や乳幼児など小さいこどもにも内視鏡手術を行うことがあるのですね。体が小さいこどもの内視鏡手術はとても難しそうに思います。

五 藤：そうですね。やはり小さい体の中で内視鏡やいろいろな道具を使わなければならないので、慎重で細やかな操作が必要です。また内視鏡手術では内視鏡で見たものしか見えないので、内視鏡を操作する助手との連携も重要です。

司会者：こどもの内視鏡手術で使う道具は大人で使うものとは異なるのですか？

五 藤：基本的な形は同じようなものになりますが、内視鏡や道具はやや細いものを使うことが多いです。それは細かい操作がしやすいということもありますが、小さい体の中で内視鏡や道具同士がぶつかったり、内視鏡の視野の妨げになったりしにくいようにするためでもあります。また細い道具はそれを出し入れするための穴も小さくて済むので、きずがとても小さく目立たなくなります。

司会者：おとなでも内視鏡手術ではきずが小さく済むと聞いたことがあります。

五 藤：はい。ただおとなの手術ではがんの手術が多く、摘出する臓器を体の外に取り出す必要があるためにどうしてもある程度きずは大きくなってしまいます。一方こどもの場合、体の中から大きな腫瘍を取り出すような手術は少なく、多くの場合きずは道具の出入口ほどの大きさで済むので、きずの面での内視鏡手術のメリットはこどもでより大きいかもしれません。私たち土浦協同病院小児外科では、例えば鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡手術は臍の中に収まる1ヶ所の小さいきずで済むような方法で行うなど、きずあとができる限り目立たなくなるような工夫も行っています。

司会者：こどもの術後のきずが目立たないことはやはりうれしいですね。

五 藤：こどもは手術を受けてからの人生も長いですから、体に残るきずをできるだけ目立たなくすることは病気を治すことと同じくらい大事なことだと思います。またきずが小さいことは、ある程度個人差があるにせよ術後の痛みが小さく済む傾向があります。痛みが小さいと退院までの期間がより短くなったり、術後の合併症がより少なくなったりすることもあるので、内視鏡手術のメリットは見た目の問題だけではないのです。

司会者：そうなのですね。その他にはこどもの内視鏡手術のメリットはありますか？

五 藤：直接目で見て行う直視下の手術よりも内視鏡手術の方がかえってやりやすい場合があります。たとえばおなかや胸の奥深いところを手術する場合やおなかや胸の中を隅々まで見なければならぬような場合、直接目で見ながら行う手術では相当大きく切開しても見えにくいことがあるのですが、内視鏡ならばカメラを進めることで、きずを広げずに奥深いところも見るのが可能です。また特に小さいこどもでは、直視下の手術では術者にしか手術している場所が見えないということがしばしばあるのですが、内視鏡手術では術者だけでなく助手や指導医も同じ画像を見ることができるので、みんなで確認しながら安全確実に手術を進められるという点もメリットだと思います。

司会者：なるほど内視鏡手術にはいろいろなメリットがあるのですね。いいことばかりのような気がしてきましたが、何かデメリットはないのでしょうか？

五 藤：内視鏡手術ではある程度長い道具を介して手術操作を行うので、自分の手で直接行う手術と比べると直感的に動かしにくい分、内視鏡手術を行う医師はそれに特化したトレーニングを積む必要があります。また複雑な手術になればなる

ほど、直視下にきずを大きく開けて行う手術より手術時間が長くなる傾向があります。内視鏡手術の予定で手術を始めても何らかの理由で手術が進まなくなってしまう場合には、きずを大きく開けて行う手術に切り替えなければならないこともまれにあります。

司会者：それならばこどもの内視鏡手術を行う医師はより特殊なトレーニングが必要そうですね。こどもの内視鏡手術はどのような病院で受けられるのでしょうか？

五 藤：小児外科医のいる病院で受けることができます。ご自分でお近くの小児外科のある病院がわからなくても、かかりつけの小児科の先生はご存じなので、そこから紹介してもらうことができます。小児外科医は内視鏡手術が本当に良いのかどうかということも含めて、その子にとって良い方法を一緒に考えてくれると思います。

司会者：小児外科医がいない近くの病院で内視鏡手術を受けたという話も聞いたことがあります。

五 藤：中学生などほぼおとなと同じような体格をしたこどもの、おとなでもよくみられる病気、例えば急性虫垂炎のような病気の手術ならば、内視鏡手術を行っている病院もあるかもしれません。しかしもっぱらおとなの手術を行っている病院ではこどもの手術や点滴などの処置に慣れていない場合も多く、こどもに適した手術道具がそろっていない場合もあります。また術前診断と異なり、小児外科医でなければ診断や治療などが難しい、普段おとなではみることがないこども特有の病気に手術中に出くわす可能性もあります。さらにこどもの全身麻酔を安全に行うことができる麻酔科医はどこにでもいるわけではありません。これらの点を考えますと、私は小児外科医がいる病院で小児外科医による手術を受けた方が良いと思います。

司会者：小児外科医のいる病院ならば、どのような内視鏡手術でも受けられますか。

五 藤：実際にはそれぞれの病院によって受けられる手術は多少異なります。しかし仮にその病院である病気について内視鏡手術を行っていない場合でも、他に内視鏡手術を行っている病院があれば、小児外科医のネットワークを介してそのような病院に紹介することも可能です。小児外科医の説明をよく聞いた上で、小児外科医と一緒に治療方針を決めていくと良いでしょう。